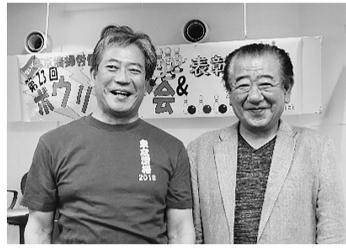


東京清掃第23回ボウリング大会を開催

「チーム戦」 第四地連Aチームが優勝 「個人戦」 激戦を制して石野隆行さんが優勝



▲団体戦優勝 第四地連Aチーム



▲個人戦優勝石野さん
(中央工場支部)

6月1日(土)、東京都ボウリングセンターにおいて、5年ぶりに第23回ボウリング大会を開催しました。各地連より選抜された10チーム、そして本部・青年部・退職者会の各チームを交えた総勢52名により熱戦が繰り広げられました。個人戦を制したのは、接戦の末4ピン差で2ゲーム合計346点を叩きだした中央工場支部の石野隆行さんでした。チーム戦は、第四地連Aチームが優勝。続く準優勝は第五地連Aチーム、三位は第三地連Bチームが獲得しました。

ゲーム終了後、熱戦の余韻さめやらぬなかSKホールに移動し、懇親会を交えた表彰式を行いました。順位発表では参加者全体で互いの健闘を称え、地連の垣根を越えて親睦を深めることができました。5年ぶりとなるレクリエーション活動を通じ、参加者の笑顔から必要性を感じました。ただ楽しむだけでなく、組織強化につなげるのが目的となります。レクリエーション活動の意義を再認識し、第24回大会に向けてさらに腕を磨き、本部・地連・支部が一体となって盛り上げていきましょう。

(泉田 和明)

個人戦

順位	氏名	支部	総得点
1	石野 隆行	中央工場	346
2	佐藤 洋介	江 東	342
3	米脇 亨	中 野	329

チーム戦

順位	地 連	総得点
1	第四地連Aチーム	1204
2	第五地連Aチーム	1140
3	第三地連Bチーム	1138

自治労東京都本部は5月14日(火)、中野セントラルパークカンファレンスの会議室において、2024自治労都本部現業統一闘争(第1次闘争)総決起集会を開催し、春の段階での人員確保・現業課題の改善を求める意思統一を行いました。わが組合からは都本部現評役員を含む総勢25名で参加しました。



▲江森闘争委員長の団結がんばろう



▲挨拶する赤池議長

主催者あいさつは赤池現評議長(町田市職労)、都本部あいさつは松村中央執

問題があるなら再公営化を求め あきらめずに粘り強い交渉を進めよう

2024 都本部現業統一闘争総決起集会

行委員長より受け、その後、自治労本部・吉村現業局長より「2024現業統一闘争の勝利にむけて」という

テーマで講演を受けました。現業職員を取り巻く情勢を踏まえ「民間委託導入が必ずしもコスト削減にはつながらない」「自治体職員でしか提供できないサービスを確立する」「現業職員は現場を持っているがゆえに様々な可能性がある」という話をいただき、現場課題の改善にむけてあきらめずに交渉を積み重ねていくことの重要性を全体で意思統一しました。

総決起集会には自治労組織内議員の岸まきこ参議院議員も駆けつけ、「私も国政の場で皆さんとともに闘います」と力強い連帯のあいさつ受けました。

各職種部会からの決意表明では、清掃部会を代表して長妻中央執行委員より、23区の採用状況報告とともにさらなる新規採用の獲得にむけた闘う決意を述べ、最後に闘争委員会の江森委

新中央執行委員紹介



▲近藤中央執行委員【豊島区】

「この度、豊島区担当中執になりました近藤と申します。わからない事も多く戸惑うこともあると思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします」

(萩原 崇氏)

インドにおける清掃労働者の実態

2023年度第2回人権啓発推進担当者会議



▲講師のベズワダ・ウィルソンさん

5月20日(月)SKホールにおいて、2023年度第2回人権啓発推進担当者会議を開催しました。インド人権活動家のベズワダ・ウィルソンさんより講演をいただきました。清掃・人権交流会と共催し、発文から1週間の呼びかけという緊急的な取り組みでしたが、東京清掃や清掃・人権交流会、各区推薦議員等、計53名が参加しました。英語での講演となるため、大東文化大学准教授の鈴木真弥さんに通訳をしていただきました。



▲参加者からは時間いっぱいまで多くの質問が

講演は「インドにおける清掃労働者の実態」マニユアル・スカベンジャーを非人道的な労働環境からの解放



▲講演者・通訳者とともに記念撮影

放運動」と題して行われました。インドでは各家庭等から排出される「し尿」をほうきとバケツを用い、手作業での処理をダリットと呼ばれる人たちが仕事としてその作業を強いられています。低賃金で劣悪な労働環境であるマニユアル・スカベンジングと呼ばれるこの仕事は1993年に法律で禁止されましたが、実際にはまだインド内の4州において公然と行われているとのことです。ベズワダ・ウィルソンさんもダリット出身ですが、この仕事に疑問を感じ、ダリットの人たちがこの仕事から解放されるよう、インド中を回り活動を続けています。インド政府が「下水道が整備

されたからそんなトイレは存在しない」と虚偽の発言をした時には、そのトイレを燃やしたり壊したりして抗議した話や、時には道具であるほうきやバケツを燃やし、ダリットはこの仕事をもうできないから転職のお金を支給し、訓練を行えと訴える等の活動をしているという話を講演で述べていました。

ダリットとは「抑圧された人々」という意味です。抑圧されているダリットの人権を護る為に闘い続けていられているベズワダ・ウィルソンさんに尊敬と敬意の念が起きた講演でした。講演の後には質疑応答が行われ、参加者からの多くの質問に対して誠実に答えられていました。最後にベズワダ・ウィルソンさんの人権を護る闘いに連帯することを参加者全員で意思統一して終了しました。

(西大條 剛)